

あぐ^抜ぬ^きぎに

手^て間^まが かがつとも

す^{どん}た^{ぐり}みは うんめえがねんす

アグ抜きは手数だが、どんぐりはおいしいですね

あーりい えー

いつまでたつとも

らずが

あがねえもんだーど

長い時間かかっているのにはかどらない

あねさんが

こつたぐ ひめうずは

まるで うんまじせんすがえ

嫁さんが作るひめうずはとてもおいしいですよ

家^{いえ}で は^うだ^まげる馬は

ほがさ 行^いつとも

は^うだ^まげるづらがなあ

家でできない牛もは、よそに行ってもきかなくなる

あの^あ穴^なは は^流やり^行だ^だー^かから

すとねー

されねーんだあど

あの穴はフアンシヨんだからつぎあてされないそうだ

い^いす^しけ^けん^んず^ず

い^いす^しま^まつ^つだ^だい^いま^まつ^つ

は^三ち^本みが せん^本はん

せ^三ゆ^本つせ^本ゆの せ^本ゆ

じゃんけんの掛け声

あの^おお^菓が^子すー

ぺえーんこ けどがんせ

あのお菓子を少し下さい

い^きづ^包ばん^丁切れる ほいぞーど

せ^まー^なばん^板を

たんねーで せとがんせ

一番切れる包丁とまな板を持ってきてください

インポートーレエ
カーラダマヘゼー
いでえどじ いでえどじ
向^むげえ山^{やま}を飛^とんでダー

子どもがどこか痛くした時の痛み止めのおまじない

江戸^{えど}なんて
もんだいでねえー
お^億くま^萬んち^丁よう

江戸八百八丁なんて問題じゃない。
こちらは億萬丁（熊野町）だ

うんながどう、
そこは沼^{ぬま}だーが
つつぺえーんなよ

おまえたち、そこは沼だが、ふん（むな）よ

「おあげえんせ」

おまんま^時どきに ^{とお}通^{ひと}る人

（飯時に通り過ぎる人がかける挨拶）とは

うんめえねえ
あずま^はつどう
ひゆうず^に すつと^ちち

おいしいねえ、小豆のはつどう ひゆうずにすつとち

オース^今ンヨウ オース^インヨウ
こ^年どすも ゆわ^{ワシ}すが
で^大えり^漁よう^で
ヨゴ^もダア 持^もつておでんせどじ

小正月行事に鯉ヶ崎で使った囃し言葉
「今年もイロシが大漁だから、ヨゴダ籠を持ってきた」

えーなさん
こ^紺う^屋やち 行^いく^に
なあど 行^いく^や

これ兄さん、染物屋にはどう行くの？

オツツビル
それでだめなら
フンズビル

押しつぷす それでだめなら踏みつぷす

おっばせん、

ハイカラアして

じいぢを^い行げんす？

おばせん、おしやれしてえいく行くのですか

おんつあんは

ス^シビ^ビどり^{捕り} めーずん^名

はん^浜もうど^人

おじさんはマグロ捕り名人の漁師

おくずれえを まげでも

なんにも ではんねーがす

お世辞を言っても何も出ませんよ

ガギわらす

か^母がさんに お^怒うられ

こんぼり

随分小僧、お母さんに怒られて大泣き

おらあまあ

は^はらが く^減つてだあふうで

のめすこんでだあーが

おやまあ すいふん腹が減つてたようだ
流し込むように食へてること

菓^か子^しあでえを

少^すす^こ よつんで

ほまつに せんすびす

菓子代を少し節約してぐそくりにしまじよう

おんつあまは

「あすだがずんこ」が

うまがつたがす

おじさんは竹馬が上手だったよ

買^かつてけどがんせ

か^鰻あー^ヶせ^崎の ^魚せがなは

い^活きつこが いいけえあ

鰻ヶ崎の魚を買ってくれ、活きがいいぞ

か^髪みい けずってけっけー

いんのいどがんすんな

髪をとかしてあげるから動かないで

「熊^{くま}に出^でつかあしてす

はじめでねえ

たますほうろき したが」

熊に出会って、今までで一番驚いたよ

からずれこおぐーりしてで

だこをつつたあと

ぐちけしばかりいて、水にはまっただそだ

けっけで けっけで

夜^{よる}もね^眠ふられ^らねえーがす

心配で心配で、夜も眠れないんですよ

キビチヨウ と

コビリツコ 持^もつてこっ

急須とお菓子を持ってきたさい

このいそがすうどき

まづ
町^{まち}から

泊^とまりよーとが 来^くんがえ

この忙しい時に宿泊客が来るんだよ

くびこのりーせー^すば^れば

人^{ひと}だ^中がりのながでも

よく^見めえーんがや

肩車をする人、みでもよく見える

このガキが まあ

きかねえったら、

イスから ぶくとれだがー!

この子はきかんほうで、ほらイスから落ちたが

このわらす

いづぞくねえど

おぼられる

この子はいたずらで、可愛げがないと怒られる

さんのお じょうどが はま ゆうめい
三王も 浄土ヶ浜も有名で
いつ来ても見でも

よ
良しぜんすこどー

三王岩も浄土が浜もいつ来て見ても良いですね

これんす これんす

ちよつときま

およれ^寄つとでえんせ

これこれ、ちよつと寄つてください

しょうがつ
正月の

あそ
遊びは だじあげ コマまーす

はねつぎ すいご

ふぐわれえ

正月の遊びは風揚げ、コマ回し、ハネツギ、双六、福笑い

こわえーがなあ、

ゆ^湯つこちでも

行^いつてくびすねー

疲れたね、温泉にでも行つてきましょう

ズーヤハ、ズーヤハ、

おまんまで いせえんす

おひなつとでんせ

おじいさんおばあさん、ご飯です。
起きて身にまいをしてください

ザンブ ザンブ とまれ^止

ザンブの花^{はな}

とつてけんがあ

(人差し指をたてて)

とんぼ、とんぼ、この指とまれ シロクサを搦つてあげるから

すくとせえー、

大 事 な 話
でえーずな はなすが

聞 こ え な い
きけえねえ

静かにしなさい。大事な話が聞こえないよ

ずぐりっこ

だでえーで まわすて

うならせで

ずぐりという手作りのコマは紐で叩きながらまわして
ふんふんうならせてあつて合つて遊ぶ

スミノザエー

クイガデハスの

うばいいえー

新築家屋の棟上式に四人一組で行なう行事。
熱い粥をフーフー吹きながら食べ、もたもたしてる者の
箸を取上げる

すつときを

あふつて食うつーと

まるで うんめえがえ

すつときを焼いて食べるうすうすおいしいよ

ずるばだで

あずますぐ

のんげえなあ

垣端で仲良く飲みましよう

すつばねを

気にすて 歩く

ひなりっこ

泥はねを気にして歩くおしやれさん

せえが びんぼうで

とんづがねえ

だだづが ねえば

わがねえなー

背が低くて届かない。踏み台がないとだめだな

すびれがきれんが

おでえーらに めせんせ

足がしびれるから、ひちをくすして楽にしてください

ぜによりも

なすたあ わらすが

でえすだが

くろうすても そだでろ

お金より産んだ子供が大切だから
苦勞をしても育てなさい

そこの たまごは

かまじれ

くでけどがんせ

その薪をカマドに入れて燃してくださる

ちよつぷつにせかな

おおせかな

ゆわすが とれでも

けつだぐねえ

告げ口するやつには、イワシがいくら取れてもあげたくない

たまごは

たんなるやすく

わあづがずう

まるくびす

アギは、持ちやすく少しづつ結えましょう

つまづを くーだーような

みやぐんだあなあ

おめさんのほ

(つまづ)を履いたように、変な宮古弁だなあ、あなたのは
(つまづは、ワラで作った履き物)

たげだがあ

なべんながの なつばを

とつつあげでけどがん

煮えたから、鍋の中の葉っぱを取り出してちょうだい

でえづの ぬぎなを

ノッコライエーど

もらった

大根の間引きした葉っぱをいっぱいいただいた

たまげだあ、

ハラノギツツオが

とんむぐれだあ！

驚いて肝をつぶした。

(ハラノギツツオは五臓六腑のこと)

でえづな 本だーすけー

ぞせえに しとがんすんな

大事な本だから粗末に扱わないで下さる

とつこいと
トツコ糸

たぐれば

ボロがでる昔むかし

絡まった糸をほどくつもりでたぐり、
隠している事まで発覚してしまう

なのかび
七日日は

七回ななかいはつとう食たぐで

七回ななかい水みずあぐーする

盆の八月七日には、七回はつとうを食べて七回泳ぐ

なんでもあつて

勝かつよう

キヤーアハテ

グーテヨギバーが全部入ったように出した人が
勝ちのじゃんけん特別ルールの掛け声

にんどまめ

時ときけけば
まげば

鳥とりにがほつづが

エンドウ豆を時くとすくに、ハトやキジが食ぐに来る

ぬぐだまつとがん

きよう
今日は まるで

すばれつたーが

温まって。今日はすくく冷えているから

泣ないでぐえり いる

なきびつつおには

まるつきり 勝かでねえでは

泣いてばかりいる泣き虫には全勝できません

のんのんどと

降ふつては 積つもる

みやうの 春雪はるゆき

亙古では冬の間はあまり降らないのに、
二月三月になつてから音がするように降り積もる

はぐらあ しねえように

ちつぽお かぶつて

そぞろ あぐ外

日射病にならないよう。帽子をかぶつて外に行こう

ハスリから

ひてぎー

持^もって来^きてけどがんせ

流し台にある「しやもじ」を持って来てください

ふつつらがすな

あ^足すの ふんだでが

ね^無ーがつか

散らかすな。足の置き場が無いよ

はつつあがつぺー

かたえつぽーだけせ

つ^積んだらほ

跳ね上がるでしょ、片側だけに積んだら

べエゴの く^下んだり

よめ^嫁の いえ^家ーあ^足す

牛が山から下りる時も、
嫁が実家に帰る時も同じように早い

ひなださ^出ではって

つらかあを

こぼがすとがんすんなあ

日向に出て、頬を目焼けしないように

ほーべずり、

う^うめ^{まい}え^具ぐえ^合ーに

来^もたもんだ

飲食中のところに突然訪問してお相伴に預かることを
ホーベズリという

ヒラダズ

いっぺえ 食^くったつけあ

す^舌つだが われたあなあ

サルナシを灰山食べたら舌が白っぽく荒れた

ほーらみろ、

お^精そう^進ずんが いいから

は^晴れだーべ

ほら、日頃の行いがいいからお天気になったでしょう

ほつきり^な 堀切が鳴つと きたかぜ^な 北風で、
まつがした^な 松ヶ下が鳴つつーど みなみかぜ^な 南風

昔、重茂の漁師達は夜中の0時頃、風の音を聞いて
地球の裏側で何風が吹いているか判断した

みずあべの^{はま}浜で食う
キミは うんめえなあ

海水浴の浜で食べるとうまうしはおいしいなあ

ほれ、
そごらじゅうせ
だらめがしてだーが

ほら、そこら中にだらだらとほしているよ

みやこ^{宮古}弁
わらった^笑やつが
つか^使ってる

宮古弁を笑った者が使っている。
安いメッキははげやすいもんだ

まづ^{街中}ながで
「ひなりっこ」ってせわがれで
おそうすがつたーがえ

町の中で「おしやれっこ」と囃されてはすかしかつた

むが^昔すあ^は お盆^{ぼん}になつつーど
あつっこつで
か^かま^まつ^つこ^こヤギ^機ー
したーがなあ

昔はお盆になると、友達同志で海などで炊事をして食べた

み^見お^送ぐり^りと^人
「おようでんせ」と
こえ^{こえ} 声をかけ

(帰りに事故などに会わないように)
見送る人は気をつけてお帰りくださいと声をかけた

めぐさめんけー
むげえの^家いえーの
まづ^{まづ}ワラス

美人ではないが愛嬌のある向かいの家の孫

めぐせーが^{泣く}なぐな

かーやんが

かだきい とつてけつけえな

みこともないから泣くな。
かーさんがかわりにカタキをとるから

モザペーナス

なんぼー買^かつても

すぐこわす

何回買つてやつてもすぐに壊す。
物を大事にしないやつをモザペーナスと言つた

めず^珍らす^{しく}くて

もつてーねえが、

タボスナ^たで食^たべつぷす

珍しくて勿体ないので大事にいたしましょう

ヤスブタダ、

はや^起くおきろど

せつつがれ

ヤスブは起床を張ること。
学校に遅れるから早く起きろとせきだてられた

モウコ^来がくつから

よん^夜まには

うそつぺえ ふがねえんだが

夜に口笛を吹くと、モウコ（ばけもの）が来ると
怒られた

やつぱりな

ぞおーや そーだーど

おも
思つてだつたあでは

やつぱりそうだと思つていたの

もくもくど

ある^{けむし}ぐ毛虫が ゲエダガで

毛^けのねえやつが

アズギデエロ

毛虫はゲエダガと呼び、毛のない芋虫は
アズギデエロという

やまたの かがす

石^{いし}を 投げ^な入れ

すてでんき^しすて

山田の案山子という遊びは杵を書いて
石を投げ入れ片足飛びで遊ぶ

湯つゝち へえつて

あぐどー きれいに

あらえんすぐえ

お風呂に入ってかかとをきれいに洗いましょう

よぐぞどん よぐぞどん

昼は きれいに

夜は きれいな

(昔は灯りも少なく、夜に外便所に行くのは怖いので)
うんちに、昼に出て、夜は出ないようにお願いした

ゆむぎが

いっぺえ へえつた

もおづは うんめえがねえ

ヨモギがたくさんはいつた草餅はおいしいね

酔っだくれ

おどつつあんに かがつて

ほにほに

いせが やげつて

酔っ払ったお父さんには本当に腹が立ちます

用だすには

そこの あうえーを

通って行けば つけーがす

用事にはその路地を通して行けば近いですよ

ウサの テツサグ、

ふらさげだあ 箱こで

銅鉱石を 運んだーのす

ウサのテツサグは田老鉱山から鯉ヶ崎まで
銅鉱石を運ぶ箱をふら下げた機械

よく見どがんせ

サツツが けえつあで

ももひきは うつそめーだが

よく見て。サツツは裏返しで、ももひきは後ろ前にはいてるよ

りんごも 買えんすんが

なんぼーが

おまげつて くだせんせ

りんごも買うので少し安くしてくださる

類人猿
るいずんえん

となりの 爺様
ずちまは

ほにほに 似てる
にでる

類人猿とすく似ている隣のお爺さん

ㄥロㄥロㄥ

やつぱり おめえん

酔
よつたぐれ

舌がもつれて、やつぱりあんたは酔っ払ってるよ

炉端
ろぼだち ねまったら

昔話
むがすばなすう

聞
きかせんが

炉端に座ったら、昔話をきかせるよ

わあずがで

いぜんすとも

おあげつてくだせんせ

少しですが、お礼し上がってください。